

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年5月31日

提出区分	実績	整理番号	17	課題区分	C		
横断的な課題	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興						
地域重点政策	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興					南信州地域振興局	
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属	南信州農業農村支援センター	
事業名	～日本なし産地再生プロジェクト活動～ 日本なし生産振興大会の開催				電話	8-236-2415	
					E-mail	minami-aec@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	<p>当産地において日本なしの栽培は明治20年頃から始まり、戦後「二十世紀」の栽培増加に伴い鳥取県に次ぐ全国第2位の産地として発展していた。現在は、栽培面積が大きく減少しているものの栽培の歴史は長く、技術の蓄積も多いことから、品質の高い果実が生産されている。そこで、昨年6月には、南信州日本なし産地再生プロジェクトを発足させ、儲かるなし経営により産地力の向上を図る取組を開始している。</p> <p>本振興大会は、産地の目指す姿を明確にし、生産者の栽培意欲の高揚を図り日本なしの経営拡大や新たな担い手確保につなげることを目的に開催する。</p>					
	現状と課題	<p>管内の日本なし生産量は、H29からR3にかけて23%減の7,421tで、R8には4割減の4,324tと推計される。一方、全国の小売単価は220円あたりおおよそ870円/kgとなっている。このことから、果樹農家の所得向上には重要な品目になると考えられることから、生産者、農協、行政機関等が一体となったプロジェクトを設立し、日本なしの産地再生を目指す取組を令和4年度から始めた。</p> <p>現状、日本なしの生産者は70歳以上がほぼ半数と著しい高齢化となっている。産地の生産力を高めるためには、改植や新植により老木が主体の低位生産園の解消を図ることが重要だが、高齢者には園地改良や規模拡大の意欲が低い。そこで、若い生産者の栽培意欲の向上や、新たな担い手の確保により生産基盤の強化を図る必要がある。</p> <p>日本なし産地再生プロジェクトについては、目標の令和9年まで集中して取り組み生産振興を図る方針で、多くの生産者の支持と協力が必要となるが、末端の生産者まで取組内容の周知ができていない。</p>					
概要内容	内容	<p>1 日本なし生産振興大会の開催</p> <p>(1)主催 南信州日本なし産地再生プロジェクト(飯田市、松川町、高森町、阿智村、下條村、喬木村、豊丘村、みなみ信州農業協同組合、下伊那園芸農業協同組合、全国農業協同組合連合会長野県本部南信事業所、長野県(農業技術課、南信農業試験場、南信州地域振興局農地整備課、南信州農業農村支援センター))</p> <p>(2)参集範囲 飯田・下伊那の日本なし生産者、日本なし産地再生プロジェクト構成団体 200名程度</p> <p>(3)開催日 令和6年2月16日(金) 午後1時30分から午後4時30分</p> <p>(4)場所 飯田市 県文化センター</p> <p>(5)開催内容 日本なしの生産振興について 新品種、栽培技術に係る試験研究成果について 現地優良事例について 講演会 日本なしの販売見通し(トレンド)について その他</p> <p>【変更内容】 資料の1冊あたりの頁数と作製部数の変更(減)</p> <p>【変更理由】 参加者の資料は20頁/冊のカラー刷りで300部作製を予定していたが、資料を検討していく中で22頁/冊に増加したため。 なお、当初の資料作製数は、当日、参加できなかった生産者で資料配布希望者への配布数と予備を含めて300部の予定であったが、2月1日時点で150名程度の参加希望者がおり、今後、230部の資料で充足できると考えるため作成部数を減らす。</p>					
		事業期間	令和6年1月				～
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	【変更】振興大会配布資料作成	A4カラー刷り 22頁 230冊	98,670	230冊×429円(税込)=98,670円			
	講演会	講師旅費1名分	27,240	県規定により計算 宿泊費あり			
		謝礼(1時間30分、大学教授級)	9,600	6,400円×1.5h			
事例発表	発表者1名(30分、高校以下教員級)	3,100	松川町果樹生産者				
	合計		138,610				

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	生産振興大会出席者	200名	155人	未達成
	大会参加者へのアンケート調査 日本なしプロジェクトの取組を支援する人数	7割以上	未実施	
事業実績・成果	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南信州地域でのなしの生産振興大会開催は初めてであり、当初、事務局が目標としていた200人の参加には至らなかったが、155人と多くの方に参加いただけた。 ・アンケートは指標に掲げたが、大会関係者と協議をした結果、参加者がなしプロジェクトの取組み支援に賛同いただいていることが明確なため、実施を見送った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標は未達成となったが、生産者から、「県では省力樹形栽培仕立てを推進しているが、技術的に難しいので、もう少し簡単方法がないか」等の意見が数多くあり、当地域の日本なし産地再生に向けて有意義な大会とすることができた。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本なしの販売単価は全国的に市場への入荷量減少から、かつてより比較的高い価格で安定していることもあり、新植、改植する生産者が増えている。 ・このことから、R6年度も引き続き人材確保、栽培技術、品種検討会等を開催し、南信州日本なし産地再生プロジェクト活動を実施していく。 			